

令和4年度公益財団法人ふくしま海洋科学館事業報告書

【事業総括】

令和4年度は、1年のうちで最も入館者数の多い8月に医療非常事態宣言が発令されるなど、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、国民の行動制限や経済活動の制限の見直し、全国旅行支援といった経済政策などにより、大きく入館者数を伸ばすことができた。

アクアマリンふくしまの入館者数は、えっぐの森どうぶつごっこなどの新展示、企画展「絵本すいぞくかん」の開催、新イベント「飼育員と学ぼう アクアマリン調査隊」など各種イベントが好評を博し、昨年度(335,538人)比で174.2%、震災後では平成25年度に次いで2番目に多い584,564人となった。

いなわしろカワセミ水族館の入館者数は、猪苗代町の補助を受けて「毒蟲展」など7つの企画展や多彩な体験プログラムの開催、TVCMの実施などにより、昨年度(55,794人)比で142.9%、開館以来で最も多い79,743人となった。

なお、新型コロナウイルス感染者数の少なかった7月、9月、10月、2月及び3月において、アクアマリンふくしまでは震災後最多、いなわしろカワセミ水族館では開館後最多の入館者数となった。

両館とも、職員一人一人がこれまでに培ったノウハウを生かしつつ、従来のやり方にとられない柔軟な発想を持ち、創意工夫をしながら各種事業に取り組んだところであり、その主な内容は下記のとおりである。

記

<アクアマリンふくしま>

- 4月26日、日本産野生動物の展示とともに、動物の動きにチャレンジできる遊具のある屋外エリア「えっぐの森どうぶつごっこ」をオープンした。
- 5月21日、環境水族館として海洋プラスチックごみ問題に取り組む「プラごみ海獣掃討大作戦」プロジェクトを立ち上げ、以下の活動を行った。
 - ・第1弾(5/21) 海岸清掃
 - ・第2弾(7/21) 館内にプラごみ海獣を設置(10/21まで)
 - ・第3弾(10/22) プラごみ海獣掃討大作戦(プラごみ削減シンポジウム)
 - ・第4弾(10/23) 海岸清掃
- 7月15日、小学校の教科書で取り上げられている「スイミー」の世界を通して、海の不思議と多様性、自然環境を守る大切さを紹介する企画展「絵本すいぞくかん～アクアマリンふくしま×スイミー～」をオープンした(令和6年5月6日まで開催)。
- 8月8日、同年7月に新種記載された「イワキサシヨウウオ」の展示を開始した。
- 9月2日、深海エイ「ザラカスベ」を日本で初めて展示した。また、10月20日には、本館バックヤードで孵化したザラカスベの赤ちゃんを展示した。
- 9月26日、「バショウカジキ」の展示を開始した。なお、本個体の飼育日数は84日となり、それまで当館が保有していた世界最長記録(75日)を更新した。

- 7 10月9日、深海魚「ヤワラゲンゲ」を日本で初めて展示した。
- 8 10月16日、子どもたちの自然への興味関心を高め、自然への扉を開くことを目的として、飼育員とともに体験活動を行う新しいプログラム「飼育員と学ぼう アクアマリン調査隊」を開始した。(6回開催)
- 9 10月28日、深海魚「カムチャッカゲンゲ」を日本で初めて展示した。
- 10 11月19日、飼育員の研究成果などを紹介する新コーナー「飼育員の研究レポート」をオープンした。
- 11 12月1日、南の海にすむ生き物と触れ合える新コーナー「パラオタッチコーナー」を、3月20日までの期間限定でオープンした。
- 12 1月14日に、いわき市内、神奈川県及び西表島で海ゴミ問題に取り組む団体との情報交換や一般の方に活動を紹介する「ふくしま海ゴミネットワークシンポジウム」を開催した。また、翌日には、いわき市内の海岸で合同清掃を実施した。
- 13 3月20日、アクアマリンえっぐを、はく製タッチやものづくりワークショップ、生き物調査、オリジナル塗り絵など、様々な体験ができるエリアにリニューアルした。また、同日、10年ぶりに解説員による活動をスタートした。解説員の愛称は、一般公募の中から選考した結果、「ごんべえズ」に決定した。

＜いなわしろカワセミ水族館＞

- 1 7月28日から、2021年に郡山市で国内で初めて確認され、樹木に被害をもたらしている外来種「サビイロクワカミキリ」を展示した。
- 2 5月21日から、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存法に指定されているシャープゲンゴロウモドキの域外保全を開始した。
- 3 8月2, 3日に教職員セミナーを、「福島県の外来種」をテーマに開催した。
- 4 9月3日にキッズプログラム「外来種ウチダザリガニをつかまえよう」を開催した。
- 5 9月4日に開館以来50万人の入館者を達成した。
- 6 イワキサンショウウオが3月20日に水槽内で産卵、展示した。

【事業内容】

I 公益目的事業

1 飼育展示事業

(1) 水槽展示及び生物の飼育状況

令和4年度末時点での展示は以下のとおり。

① 水槽数

本館	113槽
BIOBIOかっぱの里	1槽
蛇の目ビーチ	1槽
わくわく里山・縄文の里	2槽
アクアマリンえっぐ	3槽
金魚館	8槽
合計	128槽

② 生物の飼育状況

哺乳類	14種	55点
鳥類	9種	29点
爬虫類	6種	9点
両生類	10種	464点
魚類	415種	32, 139点
昆虫	10種	46点
無脊椎	297種	14, 114点
植物	500種	約20, 000点
金魚	61品種	882点
合計	1, 261種 61品種	66, 856点 882点

(2) 生物収集事業

展示生物(水生生物、陸上小動物及び植物)採集、購入、輸送

① 淡水生物採集

県内淡水生物採集及び購入

② 沿岸生物採集

福島県水産海洋研究センター調査船乗採集

福島県松川浦採集・小名浜サンマリーナ アマモ、ギンポ類他を採集

③ 北方系生物採集:北海道オホーツク海沿岸

ニュードウカジカ、ハダカカメガイ、ナメダンゴ等の冷水系生物を採集

④ 南方系生物採集

マイワシ、バショウカジキ、ギンカガミを採集

⑤ サンゴ礁、マングローブ生物収集

チョウチョウウオ類、チンアナゴ他熱帯性海水魚を採集

⑥ 植物のアヤメ・キキョウ類等を購入

⑦ ユーラシアカワウソ1頭を広島市安佐動物公園へ搬出

⑧ 新展示「えっぐの森どうぶつごっこ」生物のニホンモンガ、ハヤブサ他を盛岡市動物公園、神戸どうぶつ王国より搬入

(3) 南方系生物蓄養事業

① ビンナガ、マダラトビエイを蓄養・輸送・搬入(串本)

② キハダ・カツオを蓄養・輸送・搬入(奄美)

- (4) 研究開発事業
- ① ユーラシアカワウソやラブカ、バショウカジキ、冷水系生物、魚卵採集などの研究・新規展示開発25題を実施した。
 - ② 串本分館よりマダラトビエイやビンナガ（日本で唯一展示）、蛇の目ビーチの魚の搬入を行った。
 - ③ 「飼育員の研究レポート」を新設した。
- (5) 飼育生物管理事業
本館、えっぐ、水生生物保全センター、屋外施設の動植物展示及び飼育管理

2 移動水族館事業

主催者要請に応じ、移動水族館専用車（通称：アクアラバン）を派遣し、各地域のイベントや県内外の文化施設のイベントに出展。

海の生物に親しむ機会を提供し、当館への興味、関心を高めてもらうこと（営業・PR活動・広報宣伝）と併せて、開催地の地域振興（地域交流）に貢献。

出展回数 13回（令和3年度対比 162.5% 5回増）

見学者数 19,096人（令和3年度対比 355.5% 13,725人増）

3 研究交流事業

(1) 学術論文

- ・根室海峡から発見された未記載種のイバラモエビ属3種の記載およびラウスツノナガモエビ *L.fujimotoi* に関する補足について（Zoo taxa 掲載）
- ・生息環境を再現した展示施設において発現したユーラシアカワウソの繁殖・哺育行動（日本野生動物医学会誌掲載）
- ・孺婦岩周辺海域で確認された深海性チョウチョウウオ科ウラシマチョウチョウウオ属とキンチャクダイ科アブラヤッコ属の水中撮影記録（日本生物地理学会会報掲載）

(2) 学会発表

- ・「ユーラシアカワウソの音声コミュニケーションに関する基礎研究」ポスター発表（日本哺乳類学会）
- ・「飼育下におけるナメダングの繁殖生態」ポスター発表（魚類学会）
- ・「カンテンゲの初期発生形態」ポスター発表（魚類学会）
- ・「悪性腫瘍罹患ユーラシアカワウソの終末期ケアにおけるコルチコステロン測定の有効性」ポスター発表（日本野生動物医学会）
- ・「煮沸した滅菌海水を用いた深海性エビ類の卵育成について」口頭発表（甲殻類学会）
- ・「クダヤガラ展示と繁殖」口頭発表（水族館技術者研究会）
- ・「雄クラカケアザラシにおける血中テストステロン濃度と性成熟過程と季節性」口頭発表（海獣技術者研究会）
- ・「飼育下における繁殖期および換毛期のクラカケアザラシの音声と行動」ポスター発表（野生動物と社会学会）

- ・「ユーラシアカワウソの血走行及び採血場所の検討」口頭発表（生物多様性委員会）
- ・「悪性腫瘍罹患ユーラシアカワウソの終末期ケアにおけるコルチコステロン測定の有効性」口頭発表（生物多様性委員会）
- ・「生息環境を再現した展示施設におけるユーラシアカワウソの個体管理について」口頭発表（動物園技術者研究会）

4 海洋文化推進事業

シーラカンス保全プロジェクト

NHK との共同調査に向けて南アフリカ共和国関係機関との調整を行った。
インドネシア共和国に出張し、調査活動の再開に向けた打合せを行った。

5 企画営業事業

(1) 企画管理事業

接客や案内誘導等の業務委託、年間パスポート販売等（来館者サービスの向上）

- ① 券売・受付業務委託
券売・改札業務（専門業者委託で接客の質向上）
- ② 年間パスポート販売
 - ・入館者数の増加を目的に販売
 - ・通常販売、福島県子育て応援パスポート事業（協賛）の割引販売やプレゼント等の実施
 - ・販売実績

一 般	6,090 枚	（令和3年度対比	154.4%	2,146 枚増）
小～高	1,630 枚	（令和3年度対比	186.3%	755 枚増）
計	7,720 枚	（令和3年度対比	160.2%	2,901 枚増）

(2) 広報宣伝事業

県内外に当館の魅力を一層アピールしながらイベント開催告知、誘客促進を行うとともに、首都圏も含め各種媒体で積極的な広報宣伝活動を展開し、パブリシティによる紹介の増加を図った。

- ① 各種媒体等を活用した広報
 - ア テレビ
 - CM放送
 - 通年天気フィラー：県内1局
 - G W 向 け：県内4局、宮城2局
 - 夏 向 け：県内1局、宮城1局（特番放送）、Tver
 - 春 休 み 向 け：県内4局
 - イ 新聞
地元3紙へGW、秋、クリスマス、正月、春等の観光シーズンに広告掲載。
 - ウ 雑誌・フリーペーパー等広告
企画展およびイベントの告知のため情報及び広告掲載

エ 看板

福島空港に広報看板掲出、辰巳町交差点に看板掲出

オ Web

SNSを活用した情報発信

カ その他

テレビ番組、Webメディアへの情報、素材提供

福島県広報枠を活用した広報（マスメディア、SNS、コンビニ等ポスター掲出、駅貼りポスター掲出※企画展絵本すいぞくかん）

春休みにいわき市、郡山市、福島市、日立市周辺へ新聞折り込みを実施

② ポスター・パンフレット等の作成・活用

ア 館内案内リーフレット

- ・館内案内リーフレットを来館者に配布
- ・県内外観光施設、旅行エージェント、公共施設等に配布

イ イベントチラシ・ポスター

- ・企画展「絵本すいぞくかん」の開催、GW、夏、秋、クリスマス、正月のおイベント開催、「アクアマリンえっぐりリニューアルオープン」と解説活動再開に合わせ、チラシ、ポスターを作成、県内外の公共施設、観光施設等に配布、掲出

ウ 広報用チラシの作成

- ・移動水族館用に「えっぐの森どうぶつごっこ」を紹介するチラシを制作。
- ・館内および移動水族館用にファミリー向けリーフレットを制作

③ 広報イベントの実施

広報を目的としたイベントの実施

ア えっぐの森どうぶつごっこプレオープン

えっぐの森どうぶつごっこオープン前に一般の方100名とマスコミを招待
4月23日（土）

イ 流行魚大賞2022

流行語大賞のノミネートにあわせ、当館で関連する生き物をノミネートし投票を実施。「きつねダンス」と関連付けたフェネックが大賞となった。

結果発表 12月1日（木）

ウ 解説員愛称募集

10年振りに解説活動を再開したことをPRするため解説員の愛称を募集。

愛称発表 3月12日（日）愛称「ごんべえズ」に決定。

エ えものをさがせ！ハヤブサの木 オープン記念

給餌解説 3月28日（火）

④ メディア連携企画

- ・みんゆう県民大賞受賞記念「安部義孝さんと生き物を語る」

10月29日（土）

(3) 観光誘致事業

① 地元旅館ホテル等の販売実績

ア 契約宿泊施設等宿泊者限定チケット(地域連携チケット)

- ・いわき市周辺の契約宿泊施設等限定の入館券を販売
- ・契約宿泊施設等・・・12か所 (2組合、1グループ、9施設)

一般	19,543枚	(令和3年度対比	231.4%	11,099枚増)
小～高	5,407枚	(令和3年度対比	269.3%	3,399枚増)
計	24,950枚	(令和3年度対比	238.7%	14,498枚増)

イ 入館前売券販売

一般	6,776枚	(令和3年度対比	207.1%	3,504枚増)
小～高	1,786枚	(令和3年度対比	258.5%	1,095枚増)
計	8,562枚	(令和3年度対比	216.0%	4,599枚増)

② 送客実績

ア 個人(通常料金)

一般	174,649人	(令和3年度対比	161.5%	66,491人増)
小～高	40,993人	(令和3年度対比	185.1%	18,844人増)
計	215,642人	(令和3年度対比	165.5%	85,335人増)

イ 団体(団体料金)

件数	217件	(令和3年度対比	252.3%	131件増)
一般	4,682人	(令和3年度対比	612.0%	3,917人増)
小～高	2,080人	(令和3年度対比	530.6%	1,688人増)
計	6,762人	(令和3年度対比	584.4%	5,605人減)

ウ 契約宿泊施設等宿泊者限定チケット(地域連携チケット)

一般	19,350人	(令和3年度対比	233.5%	11,134人増)
小～高	5,422人	(令和3年度対比	266.8%	3,390人増)
計	24,772人	(令和3年度対比	241.7%	14,524人増)

エ 入館前売券

一般	13,968人	(令和3年度対比	393.2%	10,416人増)
小～高	3,576人	(令和3年度対比	493.9%	2,852人増)
計	17,544人	(令和3年度対比	410.3%	13,268人増)

オ 年間パスポート

一般	40,921人	(令和3年度対比	151.8%	13,959人増)
小～高	8,788人	(令和3年度対比	203.3%	4,465人増)
計	49,709人	(令和3年度対比	158.9%	18,424人増)

カ 年間パスポートの提示割引

- ・当館の年間パスポートの提示で割引

(1枚の提示で5名まで 一般200円引 小～高100円引)

一般	2,909人	(令和3年度対比	169.2%	1,190人増)
小～高	801人	(令和3年度対比	176.0%	346人増)
計	3,710人	(令和3年度対比	114.4%	1,536人増)

キ 障がい者

一般	9,775人	(令和3年度対比	184.0%	4,463人増)
小～高	2,039人	(令和3年度対比	202.5%	1,032人増)
計	11,814人	(令和3年度対比	187.0%	5,495人増)

③ 減免入館実績

ア 学校団体

件数 689件 (令和3年度対比 98.7% 9件減)

人数 38,036人 (令和3年度対比 92.4% 3,121人減)

イ 幼稚園又は保育園団体

件数 140件 (令和3年度対比 200.0% 70件増)

人数 749人 (令和3年度対比 162.1% 287人増)

※人数には、園児の数は含まない

ウ 市町村主催団体

件数 18件 (令和3年度対比 450.0% 14件増)

人数 378人 (令和3年度対比 1145.5% 345人増)

エ 財団主催団体

件数 3件 (令和3年度対比 300.0% 2件増)

人数 12人 (令和3年度対比 63.2% 7人減)

④ コンビニチケット

・コンビニチケット全体の入館者数

17,710人 (= 12,900人 + 4,810人)

(令和3年度対比 328.5% 12,396人増)

ア 通常チケット(販売額 一般1,750円 小～高850円 通年販売)

一般 8,940人 (令和3年度対比 463.2% 7,010人増)

小～高 3,960人 (令和3年度対比 476.5% 3,129人増)

計 12,900人 (令和3年度対比 467.2% 10,139人増)

イ ラブカップルチケット

(一般2人分のペアチケット3,500円 期間限定販売)

ペア券 2,405枚 (令和3年度対比 180.6% 1,073枚増)

人数 4,810人 (令和3年度対比 180.6% 2,146人増)

⑤ 助成券利用実績

・助成券全体の入館者数は1,036人

(令和3年度対比 166.6% 414人増)

ア 福島県職員助成券

一般 295人 (令和3年度対比 134.7% 76人増)

小～高 48人 (令和3年度対比 145.5% 15人増)

計 343人 (令和3年度対比 136.1% 91人増)

イ 福島県教職員助成券

一般 314人 (令和3年度対比 175.4% 135人増)

小～高 120人 (令和3年度対比 210.5% 63人増)

計 434人 (令和3年度対比 183.9% 198人増)

ウ 私学職員助成券

一般 197人 (令和3年度対比 197.0% 97人増)

小～高 59人 (令和3年度対比 173.5% 25人増)

計 256人 (令和3年度対比 191.0% 122人増)

エ 山形利用補助券

一般 3人 (令和3年度対比 % 3人増)

小～高 0人 (令和3年度対比 % 0人増)

計 3人 (令和3年度対比 % 3人増)

⑥ 電子チケット

一般	17,248人	(令和3年度対比 760.2%)	14,979人増)
小～高	5,293人	(令和3年度対比 1098.1%)	4,811人増)
計	22,541人	(令和3年度対比 819.4%)	19,790人増)

(4) 地域交流事業

積極的に周辺地域と交流を深め地域振興に貢献した。

① 小名浜まちづくり市民会議へ参画

会員として会議やイベントに積極的に参画

② 小名浜港まつりへの協賛

協賛を行うとともに、館内外における花火大会の観覧に貢献した。

③ ばんえつ発見の旅サポートの連携事業

・磐越道沿線の11文化施設との連絡協議会を開催した。

④ いわき ら・ら・ミュウ、小名浜美食ホテル、イオンモールとの連携

・毎月1回、上記担当者との協議会を開催

⑤ 委託販売 (いわき ら・ら・ミュウ)

・入館前売券を、いわきら・ら・ミュウ内インフォメーションにて委託販売

一般 782枚 (令和3年度対比 110.3% 73枚増)

小～高 133枚 (令和3年度対比 89.9% 15枚減)

計 915枚 (令和3年度対比 106.8% 58枚減)

⑥ 近隣動物園・水族館との連携

栃木・茨城・群馬・福島の動物園・水族館との連携事業「ファイト10」
として、年パス相互割引やホームページ制作、SNSイベントを実施

⑦ 公共施設との連携

・いわき総合図書館 科学遊び講座実施 7月29日(金)

図書館からは企画展に合わせ図書情報提供

・いわきアリオス NHK交響楽団によるミニコンサート 9月18日(日)

・コミュタン福島 出張コミュタン 工作 3月5日(日)

⑧ その他連携事業

ア オンライン企画

・イオンコンパス イオンアニマルSDGs 動物園水族館の取り組み紹介

・公益財団法人日本環境教育フォーラム 市民のための環境公開講座

イ イベント・展示

・小名浜税関支署 税関展 5月29日(日)

・江名シングルアップP 風鈴展示 8月11日(木)～31日(水)

・福島県農林水産部園芸課 福島県産の花きを使用したアレンジメントの展示
9月9日(金)～11日(日)

・トルコ・シリア大地震被災者支援 チャリティーコンサート
3月12日(日)

ウ その他

・ふくしま海ゴミネットワークシンポジウム

(於：イオンモールいわき小名浜) 1月14日(土)、15日(日)

6 学習交流事業

(1) 解説活動事業

感染症対策として中止していたボランティアによるバックヤードツアーを3月から再開した。

12月には解説員を3名採用し、館内での解説活動の準備を行ない、3月から大水槽の生き物解説や有料のバックヤードツアー等の活動を開始した。

(2) 企画展開催事業

館内外における季節演出および催事等の実施

① 蛇の目ビーチで宝さがし!

5月15日(日)、29日(日)、6月12日(日)、26日(日)

9月17日(土)、23日(金・祝)、25日(日) ※19日、24日は中止

② プラごみ怪獣掃討大作戦

第1弾 海岸ごみ回収 5月21日(土)

第2弾 私のプラごみ怪獣あらわる! 7月21日(木)～10月21日(金)

第3弾 プラごみ怪獣掃討作戦会議 10月22日(土)

第4弾 海岸清掃 10月23日(日)

③ アクアマリンクイズラリー

6月4日(土)～26日(日)の土日

④ 企画展「ユーラシアカワウソ・ドナウ展」

6月17日(金)～8月28日(日)

ユーラシアカワウソ・ドナウのはく製展示

⑤ アクアマリンの七夕まつり

7月2日(土)～8月8日(月)

⑥ 工作教室「すいぞくかんハーバリウム」

7月8日(金)～8月31日(水)

⑦ 企画展「絵本すいぞくかん～アクアマリンふくしま×スイミー～」

7月15日(金)～2023年5月7日(日)→2024年5月6日(月・祝)まで延長決定

※期間中関連企画随時実施「水族館のガラスにスイミーをつくろう」「ふわふわクラゲをつくろう」「クイズ スイミーを探せ」

⑧ BIOBIO かつぱの里生き物観察会

7月23日(土)、30日(土)、8月6日(土)、20日(土)、27日(土)

⑨ 金魚まつり&おたのしみ縁日

8月11日(木)～14日(日) ※開館時間20時まで延長

⑩ 小名浜国際環境芸術祭2022

小名浜国際環境芸術祭は、2003年に開催されてから19回目を迎えた。
「縄文しよう！」を合言葉に様々な芸術作品を展示した。

○小名浜国際大漁旗アート展 特別展

期間：9月17日（土）～11月13日（日）

○第47回福島県児童・生徒木工工作コンクール作品展

主催：福島県木材青壮年協会、福島県木材協同組合、福島民報社

期間：9月26日（月）～10月10日（月・祝）

○キッズアート展 「プラごみアート」

期間：10月8日（土）～11月23日（水・祝）

○「アーティストが縄文にやってきた！」展

期間：10月8日（土）～11月23日（水・祝）

○俳句の季（とき）コンテスト

期間：10月22日（土）～11月20日（日）

○海の男の盆栽展

協力：小名浜盆栽研究会

期間：10月29日（土）～11月3日（木・祝）

○第50回我ら海の子展（巡回絵画展）

主催：一般財団法人サークルクラブ協会 公益社団法人日本海洋少年団連盟

期間：10月29日（土）～11月27日（日）

⑪ いわきフラっこ品評会&金魚すくい

10月8日（土）

⑫ えっぐの森どうぶつごっこでスポーツの秋

お面づくり、チャレンジどうぶつごっこ（スタンプラリー）、どうぶつごっこクエスト 10月1日（土）～10月31日（月）

⑬ アクアマリンクリスマス

アクアマリンツリー展示、アクアマリンファミリーのクリスマスバンライフ（屋外装飾）、海のクリスマスリースづくり、ハートの生き物をさがせ！、フィーディングタイム きらめくイワシの大水槽、キャンドル点灯式、プロジェクションアクアリウム、クリスマス限定ケーキ販売

11月26日（土）～12月25日（日）

※開館時間延長 12月24日（土）、25日（日）19時まで

⑭ アクアマリンのお正月

パネル展「めでたい展」、恵比須様の釣りゲーム、和太鼓演奏、

12月28日（水）～1月9日（月・祝）

- ⑮ アクアマリンのひな祭り
ちりめん細工教室「ままや」製作のつるし飾り展示、ちりめん細工体験教室
2月11日（土・祝）～3月3日（金）
- ⑯ 水族館バレンタイン&ホワイトデー
ハートフルな写真募集、展示、チョコレート配付
2月11日（土・祝）～3月14日（火）
- ⑰ 海からの贈り物／シーボーンアート展「海に願いを」
企画展「絵本すいぞくかん」に関連した作品も展示、ワークショップ開催
3月10日（金）～4月9日（日）
- ⑱ 桜と桜金魚展示
3月25日（土）～4月9日（日）

（3）展示事業

魅力ある展示を維持するため、展示品、種名板、情報ソフト等の更新を随時行い、図書や映像ソフト等の充実にも努めた。

- ① 放射線に対する基礎的な情報や館内の環境放射線量、海水中の放射性物質などの情報を提供するとともに、当館が行っている調査研究について展示を行った。
- ② オセアニックギャラリーでは「いわき七浜捕鯨文化」「漁場から食卓まで」「あぶくま東縁の地質生物」「弁財天ウナギプロジェクト」「地球環境の保全活動」「海にあふれるプラスチックごみ」「採集する。研究する。展示する。」について展示した。
- ③ えっぐの森に日本産野生動物の展示とアスレチック遊具を設置した新展示施設「どうぶつごっこ」をオープンした。
- ④ わくわく里山・縄文の里にて新種記載された「イワキサンショウウオ」の展示を開始した。
- ⑤ 海・生命の進化コーナーにて進化の過程における古い形態が残るサメ、「エビスザメ」の展示を開始した。
- ⑥ カワウソのふちにてユーラシアカワウソの毛皮を用いた生物多様性保全の展示を新設した。
- ⑦ アクアマリンえっぐの室内水槽展示を撤去して、体験活動を行なえるスペースへと改修した。

（4）学校教育関連事業

学校を対象とした教育活動は、感染症対策を施して可能な限りの対応を行った。

- ① ガイダンス・館内学習
来館した学校団体を対象に、施設の展示概要を紹介するガイダンスを実施した。また、来館した学校団体を対象に研修室などで授業を行った。当館の釣り堀を利用した命の教育、獣医の仕事の紹介、震災からの復興などをテーマとした学習などを実施した。
(120回実施、対象者数5,787名)
- ② 館外学習（ゲストティーチャー）
当財団の職員を学校や施設へ派遣し、授業を行った。
(39校、対象者996名)

③ 移動水族館の実施
移動水族館専用車（アクアラバン）による生物の観察と、標本や化石などを手に取って観察をするハンズオン展示、レクチャーを行う移動水族館を実施した。（27校、対象者数1,892名）

④ 職場体験・インターンシップ・博物館学芸員実習、社会教育実習、社会体験研修の実施
中学校、高等学校、大学の生徒・学生、教員を対象に、業務体験をととして職業観・勤労観の習得や進路指導の一環を目的とした実習や社会体験研修を実施した。

ア 大学生（社会人）の社会教育実習

（3日間4回実施 対象者数 12名）

イ 教員の社会体験研修（2日間1回実施 対象教員数 1名）

ウ 教員の社会体験研修（1日間5回実施 対象教員数 2名）

エ 学芸員実習（10日間1回実施 対象学生数 5名）

⑤ 館内学習支援事業

いわき市内の小学校を対象に当館のバスで児童を送迎し、館内において学習活動を実施した。（5回実施、対象者数125名）

⑥ 教員セミナー、教員研修の実施

8月に2日間、県内の教員を集めて、猪苗代町にてウチダザリガニを題材に外来種の脅威についての講義を行う教職員セミナー開催し、40名が参加した。

(5) 情報提供事業

① 情報コーナー

飼育職員の最新の研究成果を紹介する「飼育員の研究レポート」を新設した。

② インターネットによる情報提供

ホームページを更新することにより、様々な情報提供を行った。最新生き物情報欄では生物の搬入搬出や繁殖出産の情報を、ニュース欄では季節ごとのイベントや企画展の詳細、参加体験プログラムの募集等の情報を発信した。

また、SNSを活用して、生き物の搬入や新規展示、生き物の様子など展示生物に関する情報のほか、イベントの実施状況など、タイムリーな情報提供をほぼ毎日行った。

③ 機関誌の発行

水族館の活動内容をはじめ、生物や海に関する様々な情報を掲載した機関誌「AMF NEWS」を年3回発行した（発行部数 4,000部/回）。

④ プレスリリース

テレビ、雑誌等の取材協力を積極的に行うとともに、年間86件の投げ込みを実施した（※新型コロナウイルス関連は11件）。テレビの取材放映が約110件、新聞の掲載は約270件（※新型コロナウイルス関連は8件）あった。

7 スクール開催事業

海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高めることを目的に、各種スクールを開催した。

(1) スクールの開催

事前募集を行った参加者を対象として様々な体験活動を提供するスクールを開催した。川や海など野外でのプログラムのほか、館内での宿泊を伴うプログラムを実施した。

下期には「飼育員と学ぼう」と題して飼育員が様々なテーマでレクチャーを行なう体験プログラムを毎月1回開催した。

- ・キッズプログラム：8回 166名
- ・飼育員と学ぼう：6回 79名

(2) 缶詰づくり体験ほか

館内での体験プログラムは缶詰づくり体験、エサやり体験等を実施した。

(3) 釣り体験

アクアマリンえっぐの釣り場において魚を釣って調理し、食べるという体験を提供し、子どもたちに命の教育の機会を提供した。感染症対策のため同時に参加できる人数を制限し、調理体験は密を避けるため中止とした。(参加者数16,454組)

8 ボランティア等活動事業

アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進し、本施設を自らの学習・実践の場として積極的に提供した。感染症対策のための活動時間短縮も解除し、通常のボランティア活動を再開した。技術向上のための研修は感染症対策のため中止とした。

第1期～第23期ボランティア更新者	129名
第24期新規ボランティア登録者	36名
登録者数(令和5年3月31日現在)	165名

9 施設管理事業

(1) 工事関係

- ① 経年劣化により土留めが破損した蛇の目ビーチ分水バルブボックスの修繕を行った。
- ② 夜間の動物監視を職員の自宅でも行えるように、縄文の里にWiFiカメラ用アクセスポイントを構築した。
- ③ 濾過送水等ろ過機の汚泥バキューム除去を行った。
- ④ アクアマリンえっぐの展示改修に伴い、新規流し設置及びコンセントの増設移設を行った。

(2) 省エネルギー・光熱費対策

電力の省力化に努め、令和3年度に対し約300,000kw節電した。

(3) その他

- ① 酸素欠乏・硫化水素危険作業に対応するため、新規採用職員に対し法令に基づき特別教育を実施した他、酸素欠乏硫化水素危険作業主任者技能講習の受講を推進した。
- ② 法令に基づき、玉掛、小型移動式クレーンの技能講習、仮払い機、チェーンソーの特別教育受講を推進した。

(4) 主要維持管理施設

主要維持管理施設は、次のとおり。

① いわき市小名浜字辰巳町地内

ア ふくしま海洋科学館

・本館等敷地面積	56,189.52	m ²
・本館延床面積	12,935.11	m ²
・水生生物保全センター延床面積	925.09	m ²
・子ども体験館「アクアマリンえっぐ」延床面積	1,266.70	m ²
・屋外トイレ面積	106.18	m ²
・温室面積	52.54	m ²
・わくわく里山・縄文の里関連施設延床面積	1,509.56	m ²

イ 駐車場関係

・施設外駐車场面積	12,093.81	m ²
-----------	-----------	----------------

② いわき市小名浜下神白字松下地内

海水取水・送水施設

・取水ポンプ棟延床面積	1棟	84.43	m ²
・ろ過送水棟延床面積	1棟	180.04	m ²
・取水管(管径 350mm)		91.10	m×2条
・揚水管(管径 300/350mm)		146.00	m
・送水管(管径 250mm)		2,885.04	m

③ 和歌山県串本町

水生生物保全センター分館

・延床面積	180.00	m ²
-------	--------	----------------

(5) 来館者用駐車場の確保

繁忙期に臨時駐車場を確保し、安全かつスムーズな整理誘導を行った。

駐車場は次のとおりである。

① 常時使用駐車場

・オアシス駐車場	282台(うち身障者用5台、バス15台)
・公共駐車場	452台(うち身障者用17台)

② 臨時駐車場 977台(小名浜港湾建設事務所から随時借用する)

* 駐車場合計 1,711台

10 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館管理運営事業

猪苗代町緑の村管理センター、釣堀・養魚鑑賞池、淡水魚館の3施設の総称を「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」として、福島県内及び猪苗代湖の希少淡水生物の保全をテーマに統括的な施設運営を図り、参加体験型展示を通じて環境保全及び教育普及活動に関する事業を展開した。

また、現淡水魚館内に希少淡水生物繁殖保全水槽を設置し、福島県内の希少淡水魚、は虫類、両生類、鳥類、哺乳類等の保全活動と調査研究を行い、情報発信に努めた。

(1) 施設の概要

○猪苗代町大字長田字東中丸地内

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館

猪苗代町緑の村管理センター	736.00㎡
猪苗代町緑の村釣堀、養魚鑑賞池	10,000.00㎡
猪苗代町淡水魚館	605.10㎡

(2) 展示事業

- ① 福島県の淡水生物の展示
- ② 猪苗代情報パネル展示
- ③ カワセミ、カワガラス、キセキレイ展示
- ④ 希少淡水魚繁殖保全水槽
- ⑤ 県内に生息するゲンゴロウを始めとする水生昆虫の展示水槽
- ⑥ 福島県の両生類の展示水槽
- ⑦ ユーラシアカワウソの展示
- ⑧ カワネズミの展示
- ⑨ カヤネズミ他ネズミ類4種の展示
- ⑩ 国外・国内外来種の淡水水生生物の展示
- ⑪ 金魚約30品種の展示
- ⑫ 企画展「飼育のお仕事」、「夏はやっぱりカブトムシ」、「ワタシノウチ」、「毒蟲展」、写真展「猪苗代のトンボ」、世界と日本のカワセミたち」実施

(3) 体験プログラム

- ① 釣り体験の実施、館内観察オリエンテーリングの実施
- ② タッチング水槽
- ③ 塗り絵コーナー、オリジナルエコバック作り、起き上がり小法師絵付け体験他ワークショップコーナーの設置
- ④ 木育キッズコーナー「森のこぼこ」

(4) 情報発信

各種展示及びホームページやTwitter等のSNSを通じて、猪苗代湖の保全、希少淡水魚の繁殖・保全を来館者に対して情報発信した。

II 収益事業

1 ミュージアムショップ運営

「アクアマリンショップ JOHMON」及び「ミュージアムショップ UMINOS」の2店舗で、アクアマリンふくしまオリジナルグッズなどの商品を販売した。

売上額243,608,726円

(令和3年度実績139,793,179円 前年度比174.2%)

2 レストランの運営

(1) レストランアクアクロス

数が多く資源量の安定した魚介類を食べる運動「HAPPY OCEANS」に取り組み、オリジナルメニューの提供や、運動の趣旨及び各魚種の資源量等を記載したリーフレットの提供を行った。

売上額 50,982,255円

(令和3年度年度実績27,198,575円 前年度比187.4%)

(2) 露店 The Roten Café Breeze

南テラスにて軽食を提供した。

委託料収入 1,934,801円

(令和3年度実績180,122円、前年度比 1,074.1%)

(3) 寿司処 潮目の海 HAPPY OCEANS

資源の持続的な利用をテーマに大水槽前で寿司を提供した。

委託料収入 838,870円

(令和3年度実績438,993円 前年度比191.0%)

(4) キッチンカー

超繁忙期に北ウイングやお祭り広場などで軽食を提供した。

委託料収入 318,695円

(令和4年度から実施)

3 イブニングイベント事業

財団が推進するハッピーオーシャンズの理念に基づき、会食等を通してその食材である魚介類等に関する認識を深め、魚食の啓発を行うとともに、会員相互の情報交換と親睦を図ることを目的として、新たに「肴を旨く食べる会」を開催した。

(年3回開催 参加者数計82人)

4 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館のショップ開設

飼育展示生物をモチーフにオリジナル商品をカワセミ館で開発販売し、収入確保に努めた。

売上額 10,509,340円

(令和3年度実績7,830,984円 前年度比134.2%)